

JUL 2004

REC'D 07 MAR 2003

WIPO PCT

PCT/JP 03/00193

日本国特許庁

JAPAN PATENT OFFICE

14.01.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日

Date of Application:

2002年 1月16日

出願番号

Application Number:

特願2002-007016

[ST.10/C]:

[JP2002-007016]

出願人

Applicant(s):

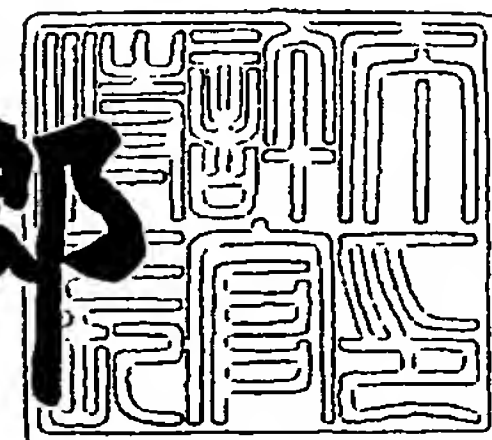
株式会社電通

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 2月18日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3008115

【書類名】	特許願
【整理番号】	DEN012
【提出日】	平成14年 1月16日
【あて先】	特許庁長官 殿
【国際特許分類】	G06F 17/00
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区堂島 2 - 4 - 5 株式会社電通関西支 社内
【氏名】	小室 猛士
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区堂島 2 - 4 - 5 株式会社電通関西支 社内
【氏名】	田中 文夫
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区堂島 2 - 4 - 5 株式会社電通関西支 社内
【氏名】	江島 勝
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区堂島 2 - 4 - 5 株式会社電通関西支 社内
【氏名】	石川 潔
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区堂島 2 - 4 - 5 株式会社電通関西支 社内
【氏名】	平田 佳宏
【発明者】	
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区堂島 2 - 4 - 5 株式会社電通関西支 社内
【氏名】	今谷 秀和

【特許出願人】

【識別番号】 000151092

【住所又は居所】 東京都中央区築地 1 丁目 1 1 番 1 0 号

【氏名又は名称】 株式会社電通

【代理人】

【識別番号】 100092956

【弁理士】

【氏名又は名称】 古谷 栄男

【電話番号】 06-6368-2160

【選任した代理人】

【識別番号】 100101018

【弁理士】

【氏名又は名称】 松下 正

【電話番号】 06-6368-2160

【選任した代理人】

【識別番号】 100101546

【弁理士】

【氏名又は名称】 眞島 宏明

【電話番号】 06-6368-2160

【選任した代理人】

【識別番号】 100120709

【弁理士】

【氏名又は名称】 河本 一行

【電話番号】 06-6368-2160

【選任した代理人】

【識別番号】 100120824

【弁理士】

【氏名又は名称】 鶴本 祥文

【電話番号】 06-6368-2160

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 004891

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 コンテンツ配信装置およびコンテンツ作成方法

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ネットワークを通じてコンテンツを配信するコンテンツ配信装置であって、
前記コンテンツは、

コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成されており、
前記コンテンツ配信装置は、

前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて、前記コンテンツを記録するコンテンツ記録手段、

前記コンテンツを配信するコンテンツ配信手段、
を備えたコンテンツ配信装置。

【請求項 2】

ネットワークを通じてコンテンツを配信するコンテンツ配信装置を機能させるためのプログラム、またはそのプログラムを記録した記録媒体であって、

前記コンテンツは、

コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成されており、
前記プログラムは前記コンテンツ配信装置を以下の、

前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて、前記コンテンツを記録するコンテンツ記録手段、

前記コンテンツを配信するコンテンツ配信手段、
を備えたコンテンツ配信装置として機能させるためのプログラムまたはそのプログラムを記録した記録媒体。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 の前記コンテンツ配信装置、または、そのコンテンツ配信装置を機能させるためのプログラムまたはそのプログラムを記録した記録媒体であって、

前記コンテンツ配信装置は、さらに、

前記コンテンツ配信手段が前記コンテンツを配信する際に、前記コンテンツ部分指示情報および前記広告部分指示情報と対応づけて、その配信履歴に関する配信履歴データを記録する配信履歴データ記録手段、

を備えたことを特徴とするもの。

【請求項 4】

ネットワークを通じて配信されるコンテンツの配信の履歴を記録するコンテンツ配信履歴記録装置であって、

前記コンテンツは、

コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成され、さらに、前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて記録されており、

前記コンテンツ配信履歴記録装置は、

前記コンテンツが配信されると、前記コンテンツ部分指示情報および前記広告部分指示情報と対応づけて、その配信履歴に関する配信履歴データを記録する配信履歴データ記録手段、

を備えたことを特徴とするコンテンツ配信履歴記録装置。

【請求項 5】

ネットワークを通じて配信されるコンテンツの配信の履歴を記録するコンテンツ配信履歴記録装置を機能させるためのプログラム、またはそのプログラムを記録した記録媒体であって、

前記コンテンツは、

コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成され、さらに、前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて記録されており、

前記プログラムは前記コンテンツ配信履歴記録装置を以下の、

前記コンテンツが配信されると、前記コンテンツ部分指示情報および前記広告部分指示情報と対応づけて、その配信履歴に関する配信履歴データを記録する配信履歴データ記録手段、

を備えたコンテンツ配信履歴記録装置として機能させるためのプログラムまたはそのプログラムを記録した記録媒体。

【請求項 6】

請求項 3 ～ 5 のいずれかにおいて、さらに、

前記コンテンツ部分の提供元のユーザが、前記配信履歴データ記録手段に記録された配信履歴データの取得を要求した場合には、前記コンテンツ部分指示情報と対応づけて記録されている前記配信履歴データを、コンテンツ部分用配信履歴データとして抽出して前記コンテンツ部分の提供元のユーザに対して出力するコンテンツ部分用配信履歴データ抽出出力手段、

前記広告部分の提供元のユーザが、前記配信履歴データ記録手段に記録された配信履歴データの取得を要求した場合には、前記広告部分指示情報と対応づけて記録されている前記配信履歴データを、広告部分用配信履歴データとして抽出して前記広告部分の提供元のユーザに対して出力する広告部分用配信履歴データ抽出出力手段、

を備えたことを特徴とするもの。

【請求項 7】

コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成されたコンテンツを示すデータを記録したプログラムまたは記録媒体であって、

前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報を記録するコンテンツ部分指示情報記録部、

前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報を記録する広告部分指示情報記録部、

前記コンテンツ部分指示情報記録部および前記広告部分指示情報記録部と対応づけて、前記コンテンツを指示するコンテンツ指示情報を記録するコンテンツ指示情報記録部、

を備えたデータ構造を有するデータを記録した記録媒体。

【請求項 8】

コンピュータを利用することにより、コンテンツを配信するコンテンツ配信方法であって、

前記コンテンツを、コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成し

前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて、前記コンテンツを記録し、

前記コンテンツを配信する際に、前記コンテンツ部分指示情報および前記広告部分指示情報と対応づけて、その配信履歴に関する配信履歴データを記録すること、

を特徴とするコンテンツ配信方法。

【請求項 9】

コンピュータを利用することにより、コンテンツの配信履歴データを出力するコンテンツ配信履歴データ出力方法であって、

前記コンテンツを、コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成し

前記コンテンツを配信する際に、前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて、その配信履歴に関する配信履歴データを記録し、

前記コンテンツ部分の提供元のユーザが、前記配信履歴データの取得を要求した場合には、前記コンテンツ部分指示情報と対応づけて記録されている前記配信履歴データを、コンテンツ部分用配信履歴データとして抽出して前記コンテンツ部分の提供元のユーザに対して出力し、

前記広告部分の提供元のユーザが、前記配信履歴記録手段に記録された配信履歴データの取得を要求した場合には、前記広告部分指示情報と対応づけて記録されている前記配信履歴データを、広告部分用配信履歴データとして抽出して前記広告部分の提供元のユーザに対して出力すること、

を特徴とするコンテンツ配信履歴データ出力方法。

【請求項 10】

宣伝広告機能が付加されたコンテンツを作成するコンテンツ作成方法であって

前記コンテンツは、

アーティストのプロモーション映像とされており、

前記プロモーション映像に対し、商品またはサービスに関する広告映像を含めることによって前記コンテンツを作成すること、

を特徴とするコンテンツ作成方法。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

この発明は、ネットワークを介して、広告要素を含んだコンテンツを配信するコンテンツ配信装置およびコンテンツ作成方法に関するものである。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

インターネットや番組放送で発信されるコンテンツは、そのコンテンツの発信者のメッセージを伝える手段の一つである。そのため、そのようなコンテンツが備えるメッセージ伝達手段を利用することによって商品等の宣伝広告活動を行う目的で、広告主がコンテンツ制作資金を提供することが通常行われている。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとする課題】

近年、テレビ番組のほか、インターネットによるコンテンツ配信、蓄積型放送の導入により多チャンネルの時代に移行しつつある。そして、多チャンネルであるために、視聴者がコンテンツに接触する時間が相対的に減少することが予想される。したがって、コンテンツ製作者は、より質の高いコンテンツを制作する必要性が生じてくる一方で、広告主の側からしても、多数あるコンテンツの中から、より効果的に自社の商品またはサービスの宣伝を行うことが可能なコンテンツを選択する必要性が生じるものと思われる。

【 0 0 0 4 】

この発明は、上記のようなコンテンツ製作者、コンテンツ制作のスポンサーとなる広告主の必要性に鑑みて、より宣伝広告機能の高いコンテンツの作成方法および、そのようなコンテンツの配信に好適なコンテンツ配信装置を提供すること

を目的とする。

【 0 0 0 5 】

【課題を解決するための手段および発明の効果】

1) 本発明のコンテンツ配信装置は、

ネットワークを通じてコンテンツを配信するコンテンツ配信装置であって、

前記コンテンツは、

コンテンツ部分と広告部分とを含むデータによって構成されており、

前記コンテンツ配信装置は、

前記コンテンツ部分に関する情報を示すコンテンツ部分指示情報および前記広告部分に関する情報を示す広告部分指示情報と対応づけて、前記コンテンツを記録するコンテンツ記録手段、

前記コンテンツを配信するコンテンツ配信手段、

を備えたことを特徴とする。

【 0 0 0 6 】

これにより、前記コンテンツの配信を受けるユーザは、自己の興味のあるコンテンツ部分を視聴しつつ、前記広告部分を充分認識することになる。したがって、前記コンテンツは、高い宣伝広告機能を有することとなり、前記広告部分の広告対象についての販売促進効果が向上することとなる。

【 0 0 0 7 】

3) 本発明の前記コンテンツ配信装置は、さらに、

前記コンテンツ配信手段が前記コンテンツを配信する際に、前記コンテンツ部分指示情報および前記広告部分指示情報と対応づけて、その配信履歴に関する配信履歴データを記録する配信履歴データ記録手段、

を備えたことを特徴としている。

【 0 0 0 8 】

これにより、複数の前記コンテンツが配信される場合であっても、あるコンテンツ部分を含むコンテンツの配信履歴の結果はどうであるか、あるいは、ある広告部分を含むコンテンツの配信履歴の結果はどうであるか、という別々の基準に基づいて前記配信履歴を取得することができる。したがって、前記コンテンツ部

分の制作者、および前記広告部分の制作者は、それぞれ、前記配信履歴データの中から自分に必要なデータを簡易に取得することができる。

【 0 0 0 9 】

6) 本発明の前記コンテンツ配信装置は、さらに、

前記コンテンツ部分の提供元のユーザが、前記配信履歴データ記録手段に記録された配信履歴データの取得を要求した場合には、前記コンテンツ部分指示情報と対応づけて記録されている前記配信履歴データを、コンテンツ部分用配信履歴データとして抽出して前記コンテンツ部分の提供元のユーザに対して出力するコンテンツ部分用配信履歴データ抽出出力手段、

前記広告部分の提供元のユーザが、前記配信履歴データ記録手段に記録された配信履歴データの取得を要求した場合には、前記広告部分指示情報と対応づけて記録されている前記配信履歴データを、広告部分用配信履歴データとして抽出して前記広告部分の提供元のユーザに対して出力する広告部分用配信履歴データ抽出出力手段、

を備えたことを特徴としている。

【 0 0 1 0 】

これにより、前記コンテンツ部分の提供元のユーザ、および前記広告部分の提供元のユーザのそれぞれは、必要な配信データのみを簡易に取得することができる。この効果を逆にみると、前記コンテンツ配信装置は、不必要な配信履歴データをそれらのユーザに送信しないという効果がある。したがって、前記コンテンツ部分の提供元および前記広告部分の提供元が複数存在する場合にも、各提供元の配信履歴データに関する営業秘密を確実に保護することができる。

【 0 0 1 1 】

このように、ユーザ毎に前記配信履歴データのアクセス制限をすることができるのは、前記コンテンツを、そのコンテンツの構成要素を示す前記コンテンツ部分指示情報および広告部分指示情報という２種類の ID によって特定する、という前記コンテンツ記録手段の構成によるものである。

【 0 0 1 2 】

1 0) 本発明のコンテンツ作成方法は、

宣伝広告機能が付加されたコンテンツを作成するコンテンツ作成方法であって

前記コンテンツは、

アーティストのプロモーション映像とされており、

前記プロモーション映像に対し、商品またはサービスに関する広告映像を含めることによって前記コンテンツを作成すること、

を特徴としている。

【 0 0 1 3 】

ここで、前記プロモーション映像は、出演するアーティスト等に興味がある視聴者によって視聴選択される傾向が強いため、その視聴者は、その映像に含まれる前記広告映像に対しても十分な興味を抱く可能性が高い。したがって、本発明の前記コンテンツ作成方法により、視聴者が前記広告映像を認識する可能性が高まることによって広告対象の宣伝広告効果を高めることができる。

【 0 0 1 4 】

用語の定義について説明する。

【 0 0 1 5 】

この発明において、

「コンテンツ」とは、画像、動画等の映像情報、またはそれらと音声との結合情報等の内容であって、テレビ放送や、蓄積型放送、インターネットによる配信等の手段によって所定の単位で提供されるものを含む概念である。実施形態では、プロモーションビデオがこれに該当するが、その他、映画、CM等も「コンテンツ」の概念に含まれる。

【 0 0 1 6 】

【発明の実施の形態】

本発明に係るコンテンツ配信装置の実施形態を説明する。実施形態では、コンテンツとしてプロモーションビデオ（以下、PVとする）を例示して説明する。

【 0 0 1 7 】

PVは、一般的には、アーティストが視聴者に楽曲を宣伝するために制作されるものである。また、実施形態におけるPVは、プロモーションビデオ映像中に

広告映像を含むことを特徴としている。そのようなP Vの具体例として、例えば、そのプロモーションビデオに出演するアーティストが、楽曲演奏中に広告対象となる飲料水を飲む映像が含まれたプロモーションビデオ映像を挙げることができる。このようなコンテンツにより、広告対象の宣伝広告効果が著しく高まることが予想される。なぜならば、P Vは、特定のアーティストに興味があるユーザによって視聴選択される傾向が強いため、そのユーザは、P Vの映像中に現れる広告対象の商品またはサービスに関心を持つ可能性が高まることが予想されるからである。したがって、本実施形態では、より宣伝広告効果の高いコンテンツの制作手法を提供することを一つの目的としている。以下、実施形態で説明するコンテンツを、P V a d (p r o m o t i o n v i d e o / a d v e r t i s e m e n t の略称) として説明する。

【 0 0 1 8 】

本実施形態は、コンテンツ配信装置としてのP V a d サービスサーバが、ユーザP Cに対してP V a d の配信サービスを行うP V a d サービスシステムを説明するものである。このシステムにおけるP V a d という従来にない新しいコンテンツによって、広告対象としている商品またはサービスの宣伝広告効果を高めることができる。

【 0 0 1 9 】

以下、まず始めに、P V a d サービスシステムのシステム概要、装置等の構成、特許請求の範囲に記載した用語と実施形態との対応を説明し、次に、本実施形態による処理内容等の説明を行う。

目次

1. システム概要
2. 装置等の構成
3. 特許請求の範囲に記載した用語と実施形態との対応
4. システムの処理内容
 - 4 - 1. P V a d 配信サービス
 - 4 - 2. P V a d 視聴データサービス
5. 実施形態による効果

6. 本発明のその他の実施形態

【 0 0 2 0 】

―― 1. システム概要 ――

図 1 3 は、P V a d サービスシステム 8 の構成である。P V a d サービスシステム 8 は、ユーザが使用するユーザ P C（パーソナルコンピュータ）1 0 0、レコード会社が使用するレコード会社 P C 5 0 0、広告主が使用する広告主 P C 6 0 0、P V a d サービスを行う事業主が管理する P V a d サービスサーバ 2 0 0 で構成される。ユーザ P C 1 0 0、レコード会社 P C 5 0 0、広告主 P C 6 0 0、P V a d サービスサーバ 2 0 0 のそれぞれは、インターネット 2 を介して互いに接続可能である。P V a d サービスサーバ 2 0 0 は、P V a d データベース（以下、「DB」とする）3 0 0、P V a d 視聴カウンタ DB 4 0 0 と接続可能である。なお、P V a d サービスサーバ 2 0 0 は、インターネットサイト（ポータルサイト等）に置いて P V a d 配信サービス等を行うこととすればよい。

【 0 0 2 1 】

P V a d DB 3 0 0 は、P V a d データ及びその P V a d の内容に関する情報を記録するためのものである。P V a d 視聴カウンタ DB 4 0 0 は、ユーザに配信した P V a d の視聴ログ（配信ログ）を記録するためのものである。

【 0 0 2 2 】

なお、P V a d DB 5 0 0、P V a d 視聴カウンタ DB 4 0 0 のそれぞれは、P V a d サービスサーバ 2 0 0 のハードディスクに直接記録するようにしてもよいし、あるいは、P V a d サービスサーバ 2 0 0 とは別のサーバに記録するようにしてもよい。

【 0 0 2 3 】

―― 2. 装置等の構成 ――

図 2 は、ユーザ P C 1 0 0 のハードウェア構成の一例である。ユーザ P C 1 0 0 は、C P U 1 0、スピーカ 1 1、ディスプレイ 1 2、ハードディスク 1 4、メモリ 1 6、キーボード 1 8、インターネット 2 に接続するための通信回路 1 9 を

備えている。CPU10は、ユーザPC100全体を制御する。メモリ16は、CPU10のワーク領域等を提供する。ハードディスク14は、CPU10を動作させるためのプログラムや、ウェブを閲覧するためのブラウザプログラムを記録する。キーボード18の操作により生成される操作情報は、CPU10に入力され、CPU10が生成した画像情報および音声情報は、ディスプレイ12、スピーカ11にそれぞれ出力される。

【0024】

図3は、広告主PC600のハードウェア構成の一例である。広告主PC600は、CPU60、スピーカ61、ディスプレイ62、ハードディスク64、メモリ66、キーボード68、インターネット2に接続するための通信回路69を備えている。それぞれのハードウェアの機能は、上記したユーザPC100の各ハードウェアと同様である。なお、レコード会社PC500のハードウェア構成も、広告主PC600と同様である。

【0025】

図4は、PVadサービスサーバ200のハードウェア構成の一例である。PVadサービスサーバ200は、CPU20、ハードディスク24、メモリ22、インターネット2に接続するための通信回路26を備えている。ハードディスク24は、PVadサービスプログラムを記録する。

【0026】

図5は、PVadDB300の構成の一例である。PVadDB300には、PVadに関連する情報である“アーティスト名”、“曲名”及び、広告主がPVadに含める商品名やサービス名等を特定する“adアイテム名”と、PVadの内容を記録した“PVadデータ”が記録される。また、PVadDB300には、ヘッダ情報として、PVadを特定する“PVad-ID”、アーティスト名および曲名を特定する“PV-ID”、広告主およびadアイテム名を特定する“ad-ID”、が記録される。このようなPVadDB300により、PVadは、PVad-IDによる特定だけではなく、PV-ID、あるいは、ad-IDという、PVadを構成する異なった要素によって独立に特定されることを特徴としている。

【 0 0 2 7 】

図 6 は、P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 の構成の一例である。P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 には、P V a d を特定する“P V a d - I D”、アーティスト名および曲名を特定する“P V - I D”、広告主および a d アイテム名を特定する“a d - I D”、P V a d を配信したユーザを特定する“アドレス”、そのユーザからの“アクセス日時”が記録される。

【 0 0 2 8 】

―― 3. 特許請求の範囲に記載した用語と実施形態との対応――

特許請求の範囲に記載した用語と実施形態との対応は、以下のとおりである。

【 0 0 2 9 】

「コンテンツ」は、P V a d サービスサーバ 2 0 0 がユーザ P C に対して配信する P V a d に対応する。「コンテンツ部分」は、P V a d におけるプロモーションビデオ映像に対応し、「広告部分」は、P V a d における広告映像に対応する。「コンテンツ配信装置」は、図 1 3 の P V a d サービスサーバ 2 0 0 に対応する。「ネットワーク」は、図 1 3 のインターネット 2 に対応する。

【 0 0 3 0 】

「コンテンツ部分指示情報」は、図 5 の P V a d D B 3 0 0 に記録される P V - I D に対応し、「広告部分指示情報」は、図 5 の P V a d D B 3 0 0 に記録される a d - I D に対応する。「コンテンツ記録手段」は、P V a d サービスサーバ 2 0 0 の C P U 2 0 が P V a d を P V a d D B 3 0 0 に記録する処理に対応する。「コンテンツ配信手段」は、C P U 2 0 が P V a d を送信する処理（図 7 ステップ S 7 5 6 参照）に対応する。

【 0 0 3 1 】

「配信履歴データ記録手段」は、P V a d サービスサーバ 2 0 0 の C P U 2 0 が、P V a d の視聴ログを P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 に記録する処理（図 7 ステップ S 7 5 8）に対応し、「配信履歴データ」は、図 7 ステップ S 7 5 8 で C P U 2 0 が P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 に記録するデータに対応する。

【 0 0 3 2 】

「コンテンツ部分用配信履歴データ抽出出力手段」は、P V a d サービスサ

バ200のCPU20が、レコード会社PC500用に視聴データをカスタマイズして送信する処理が対応し、「コンテンツ部分用配信履歴データ」は、図12に示すレコード会社用視聴データに対応する。「広告部分用配信履歴データ抽出手段」は、PVadサービスサーバ200のCPU20が、広告主PC600用に視聴データをカスタマイズして送信する処理（図9ステップS954、S956参照）が対応し、「コンテンツ部分用配信履歴データ」は、図11に示す広告主用視聴データに対応する。

【0033】

「コンテンツ部分指示情報記録部」は、図5に示すPVadDB300におけるPV-IDを記録するカラムに対応し、「広告部分指示情報記録部」は、PVadDB300におけるad-IDを記録するカラムに対応し、「コンテンツ指示情報記録部」は、PVadDB300におけるPVad-IDを記録するカラムに対応する。

【0034】

ー 4. システムの処理内容 ー

本システムのPVadサービスの概要を、図1を参照しながら説明する。

【0035】

ユーザPC100は、ユーザの操作に応じてPVadサービスサーバ200にアクセスし、PVadの配信を要求する（1）。PVadサービスサーバ200は、要求されたPVadをユーザPC100に配信する（2）。PVadは、プロモーションビデオ映像に含まれるアーティストおよび楽曲を特定するPV-IDと、プロモーションビデオ映像に含まれる広告対象である商品またはサービスを特定するad-IDとに対応づけて記録されている。PVadサービスサーバ200は、その配信ログをPVad視聴カウンタDB400に記録する（3）。配信ログとして、PVad毎にアクセス日時等が記録される。以上までの処理が、後述するPVad配信サービスの概要である。

【0036】

次に、PVad視聴データサービスの処理の概要を説明する。この視聴データサービスは、広告主やレコード会社が、制作したPVadの視聴数に関するデー

タを知ることができるようにするためのものである。広告主 P C 6 0 0 は、操作者の操作に応じて P V a d サービスサーバ 2 0 0 にアクセスし、視聴データを要求する (4)。P V a d サービスサーバ 2 0 0 は、P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 に記録されたデータから、a d - I D に基づいて視聴ログを抽出する (5)。すなわち、この処理により、アクセスのあった広告主に関連する視聴ログのみが選択的に抽出されることになる。次に、P V a d サービスサーバ 2 0 0 は、その抽出した視聴ログを広告主視聴データとして広告主 P C 6 0 0 に送信する (6)。

【 0 0 3 7 】

このように、本システムでは、宣伝広告効果の高い P V a d をユーザに配信するとともに、その P V a d の制作にかかわったレコード会社および広告主が、その P V a d の視聴データを取得することができる。

【 0 0 3 8 】

以下、上述した処理の詳細を、P V a d 配信サービス、P V a d 視聴データサービスの各段階に分けて説明する。

【 0 0 3 9 】

4 - 1. P V a d 配信サービス

P V a d 配信サービスは、P V a d サービスサーバ 2 0 0 が、ユーザによって操作されるユーザ P C 1 0 0 からの要求に応じて P V a d を配信することを内容とするものである。以下、この P V a d 配信サービスの処理内容を図 7 のフローチャートにしたがって説明する。

【 0 0 4 0 】

ユーザ P C 1 0 0 の C P U 1 0 は、P V a d サービスサーバにアクセスした後、ユーザの操作に応じて P V a d サービスサーバ 2 0 0 にメインメニュー要求を送信する (図 7 ステップ S 7 0 1)。P V a d サービスサーバ 2 0 0 の C P U 2 0 は、ユーザ P C 1 0 0 からメインメニュー要求がある否かを判断し (ステップ S 7 5 0)、要求があると判断すれば、メインメニュー画面データを送信する (ステップ S 7 5 2)。ユーザ P C 1 0 0 の C P U 1 0 は、メインメニュー画面データを受信するか否かを判断し (ステップ S 7 0 3)、受信したと判断すればそ

のメインメニュー画面データに基づいてメインメニューをディスプレイ12に表示する（ステップS705）。図8Aは、メインメニュー画面例を示す。図8Aに示すように、メインメニューには、アーティスト名、曲名によって特定されるPVadリスト等が表示される。

【0041】

ユーザPC100のCPU10は、ユーザの操作によってPVad視聴要求が選択されるか否かを判断する（ステップS707）。このPVad視聴要求は、図8Aのメインメニュー中の”PLAY”ボタンをクリックすることによって行われる。CPU10は、PVad視聴要求が選択されたと判断すれば、その視聴要求データをPVadサービスサーバ200に送信する（ステップS709）。視聴要求データは、図5に示すPVadDB300におけるPVadを特定するデータであり、具体的には、PVad-IDを含むデータである。PVadサービスサーバ200のCPU20は、ユーザPC100から視聴要求データを受信するか否かを判断し（ステップS754）、受信したと判断すれば、その視聴要求データに基づいて、ユーザによって選択されたPVadデータをユーザPC100に送信する（ステップS756）。

【0042】

ユーザPC100のCPU10は、PVadサービスサーバ200からPVadデータを受信するか否かを判断し（ステップS711）、受信したと判断すれば、そのPVadデータに基づいてPVadを再生し（ステップS713）、再生終了後に処理を終了する。図8Bは、選択されたPVadを再生中の画面例である。PVadサービスサーバ200のCPU20は、ステップS756の処理の後、送信したPVadデータに基づいて、視聴ログをPVad視聴カウンタDB400に記録して（ステップS758）、処理を終了する。

【0043】

図6は、PVad視聴カウンタDB400の構成例を示す。図に示すように、PVad視聴カウンタDB400には、PVad毎に、PVadを特定するPVad-ID、アーティストおよび楽曲を特定するPV-ID、広告対象を特定するad-IDがあらかじめ記録されている。そして、CPU20は、ステップS

756におけるPVa dデータの送信がある度に、視聴ログとして、PVa dデータの送信先となったユーザPC100のアドレスとユーザPC100からのアクセス日時とをPVa d視聴カウンタDB400に記録する。

4-2. PVa d視聴データサービス

以上の処理により、PVa d配信サービスが継続して行われると、PVa d視聴カウンタDB400には複数の視聴ログが記録される。PVa d視聴データサービスは、クライアントの要求に応じてPVa dサービスサーバ200がその視聴ログを公開するサービスである。以下、このPVa d視聴データサービスの処理内容を図9のフローチャートにしたがって説明する。なお、図9のフローチャートは、クライアントとして広告主PC600を例示して説明するが、後述する視聴データの内容を除き、クライアントがレコード会社PC500の場合であっても処理内容は同様である。

【0044】

広告主PC600のCPU60は、PVa dサービスサーバ200にアクセスしてディスプレイ62にメインメニュー（図8A参照）を表示する（ステップS901）。CPU60は、操作者（例えば、広告制作責任者等）から視聴データの要求が選択されるか否かを判断する（ステップS903）。この視聴データ要求は、図8Aに示すメインメニュー中の”視聴データ” ボタンをクリックすることによって行われる。CPU60は、ステップS903で視聴データ要求が選択されたと判断すれば、視聴データ要求情報をPVa dサービスサーバ200に送信する（ステップS905）。PVa dサービスサーバ200のCPU20は、その視聴データ要求情報を受信して、ID/パスワード要求情報を送信する（ステップS950）。

【0045】

広告主PC600のCPU60は、そのID/パスワード要求情報を受信して、その情報に基づいてID/パスワード入力画面をディスプレイ62に表示する（ステップS907）。図10Aは、ID/パスワード入力画面を示す。CPU60は、操作者の操作によってID/パスワードが入力されたか否かを判断し（ステップS909）、入力されたと判断すれば、そのID/パスワードデータを

P V a d サービスサーバ 2 0 0 に送信する（ステップ S 9 1 1）。P V a d サービスサーバ 2 0 0 の C P U 2 0 は、その I D / パスワードを受信して、クライアント認証がされるか否かを判断する（ステップ S 9 5 2）。このクライアント認証は、あらかじめ P V a d サービスサーバ 2 0 0 のハードディスク 2 4 に記録された広告主 P C 6 0 0 毎の I D / パスワードと、送信された I D / パスワードとが合致するか否かを判断するようにすればよい。

【 0 0 4 6 】

P V a d サービスサーバ 2 0 0 の C P U 2 0 は、クライアント認証がされたと判断すれば、視聴データを要求している広告主 P C 6 0 0 用に視聴データをカスタマイズし（ステップ S 9 5 4）、そのカスタマイズした視聴データを広告主 P C 6 0 0 に送信して処理を終了する（ステップ S 9 5 6）。広告主 P C 6 0 0 の C P U 6 0 は、受信した視聴データをディスプレイ 6 2 に表示して処理を終了する（ステップ S 9 1 3）。なお、C P U 2 0 は、ステップ S 9 5 2 においてクライアント認証がされなかった場合には、所定回数の I D / パスワードデータの送信を限度として、クライアント認証がされない旨のエラーメッセージを送信するようにしてもよい。

【 0 0 4 7 】

図 1 1 は、広告主 P C 6 0 0 のためにカスタマイズされた視聴データの画面例である。図 1 1 A は、広告主 P C 6 0 0 を操作する広告主が、ある商品広告を提供している P V a d についての視聴データである。ここでは、この広告主は、アーティスト名” A B C バンド” の” L o v e P o p s ” という曲の P V に、a d アイテム名” ドリンク Z ” の広告を提供している。そして、広告主 P C 6 0 0 は、図 1 1 A に示すように、その P V a d に関する視聴数を確認することができる。図 1 1 B は、図 1 1 A に示す画面中の” 時間帯別アクセス” ボタンをクリックすることによって表示される、図 1 1 A の視聴数を時間帯別に分けて集計した視聴データの画面である。また、図 1 1 C は、広告主が a d アイテム名” ドリンク Z ” の提供を、複数の P V に対して行っている場合の視聴データの画面例である。

【 0 0 4 8 】

ここで、a d アイテムが複数の P V に提供されている場合とは、具体的には、P V a d D B 3 0 0 に同一の a d - I D で特定される P V a d が複数記録されている状態をいう。このような状態が生ずるのは、実施形態における P V a d は、アーティストの楽曲のプロモーション映像と、広告映像との組合せによって制作されるものであるからである。したがって、上記したような同一の a d - I D に対して複数の P V - I D が対応づけられる場合の他に、同一の P V - I D に対して複数の a d - I D が対応づけられる場合、すなわち、あるアーティストの楽曲のプロモーション映像に対して、広告対象が異なる複数の P V a d のバリエーションが制作される場合もありうる。さらに、1 のプロモーション映像に対して1の広告対象を含める場合だけでなく、1 のプロモーション映像に対して複数の広告対象を含めて P V a d を制作するようにしてもよい。

【 0 0 4 9 】

なお、図 1 1 に示す視聴データを広告主 P C 6 0 0 用にカスタマイズする処理（ステップ S 9 5 4）は、C P U 2 0 が、図 6 に示す P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 を参照して特定の a d - I D を有するデータを抽出し、それらのデータに記録されたアクセス日時およびそのカウント数に基づいて集計処理を行うようにすればよい。

【 0 0 5 0 】

図 1 2 は、レコード会社 P C 5 0 0 のためにカスタマイズされた視聴データの画面例である。ここでは、このレコード会社は、アーティスト名” A B C バンド” の” L o v e P o p s ” という曲の P V a d についての視聴数を確認することができる。なお、この場合の、視聴データをレコード会社 P C 5 0 0 用にカスタマイズする処理は、C P U 2 0 が、図 6 に示す P V a d 視聴カウンタ D B 4 0 0 を参照して特定の P V - I D を有するデータを抽出し、それらのデータに記録されたアクセス日時およびそのカウント数に基づいて集計処理を行うようにすればよい。

【 0 0 5 1 】

―― 5. 実施形態による効果 ――

実施形態では、P V a d の配信を受けるユーザは、自己の興味のあるプロモ-

ション映像を視聴しつつ、そのプロモーション映像に含まれる広告映像を充分認識することになる。なぜならば、プロモーション映像は、出演するアーティストに興味があるユーザによって視聴選択される傾向が強い性質を持つのが一般的であるから、そのユーザは、その映像に含まれる広告映像に対しても充分な興味を抱く可能性が高いからである。したがって、実施形態によるPVadにより、広告映像の対象となる商品またはサービスの宣伝広告効果を高めることができ、広告主は、その商品等の販売促進効果を高めることができる。

【0052】

ここで、従来のプロモーション映像のテレビ放送またはインターネット配信においては、広告主は、CM放送やバナー広告等を利用して商品等の宣伝広告を行っている。しかしながら、それらのCM放送やバナー広告は、プロモーション映像とは切り離された独立の広告情報である。したがって、プロモーション映像に関心のあるユーザが、必ずしもそれらの独立した広告情報に対して接触あるいは認識するとは限らない。この点、実施形態によるPVadによれば、プロモーション映像中に広告映像が含まれているため、そのプロモーション映像に関心のあるユーザは、より積極的にその広告映像の広告対象を認識することになる。なお、より一層宣伝広告機能が高めるため、PVadに出演するアーティストが広告対象の商品またはサービスを積極的に利用等しているシーンを広告映像とするのが好ましい。

【0053】

実施形態では、PVad視聴カウンタDB400には、アーティストおよびその楽曲を特定するPV-ID、広告対象を特定するad-IDの2種類のIDによって視聴ログが記録される（図6参照）。これにより、複数のPVadが配信される場合にも、あるアーティストおよび楽曲のプロモーションビデオを含むPVadの配信履歴の結果はどうであるか、あるいは、ある広告対象の広告映像を含むPVadの配信履歴の結果はどうであるか、という別々の基準に基づいて配信ログを記録することができる。したがって、プロモーション映像の制作に関係するレコード会社、および広告映像の制作に関係する広告主は、それぞれ、視聴ログの中から必要なデータを簡易に取得することができる。

【 0 0 5 4 】

実施形態では、P V a d サービスサーバ 2 0 0 は、視聴データサービス処理において、アクセスしてきたクライアント（広告主 P C 6 0 0 またはレコード会社 P C 5 0 0）について、I D / パスワードに基づいてクライアント認証し（図 9 ステップ S 9 5 2 参照）、そのクライアント用の視聴データのみを送信することとしている（図 9 ステップ S 9 5 4、S 9 5 6 参照）。これにより、P V a d サービスサーバ 2 0 0 は、不必要な視聴データをクライアントに送信しないという効果がある。したがって、各クライアントの視聴データに関する営業秘密を確実に保護することができる。このように、クライアント毎に視聴データのアクセス制限をすることができるのは、P V a d というコンテンツを、その各構成要素を指示する P V - I D および a d - I D という 2 種類の I D によって特定する、という本発明独自のコンテンツの特定方法によるものである。なお、P V a d サービスの運営上、クライアント毎に視聴データをカスタマイズする必要がなければ図 9 ステップ S 9 5 4 の処理を省略してもよいし、その他、視聴データのアクセス制限をする必要がなければ、I D / パスワードによるクライアント認証処理（図 9 ステップ S 9 5 0、9 0 7、S 9 0 9、S 9 1 1、S 9 5 2）を省略してもよい。

【 0 0 5 5 】

また、クライアントは、視聴データサービスによって視聴ログを取得することができるため、その視聴ログを基準にすることによって広告主またはレコード会社について発生する費用の決定が容易になる。例えば、あらかじめ広告主とレコード会社との間で視聴単価（例えば、一視聴ログ数に対する金額）を設定しておき、広告主は、その視聴単価に視聴ログ数を乗じた金額を、達成視聴ログ報酬としてレコード会社に支払うこととする。このような費用決定手法により、レコード会社としては、より視聴ログを多く獲得できる P V a d を作成することとなり、一方、広告主としては、自社の商品等を効果的に宣伝するためにそのような P V a d を作成するレコード会社を選択することが期待される。したがって、より多くの広告主に選択されるレコード会社は、より多くの達成視聴ログ報酬を得ることができ、結果的に質の高い P V a d が作成され、かつ、商品等の宣伝広告

機能も向上するという経済的な効果も生ずることが期待される。いずれにしても、このような効果が生ずるのは、クライアントが視聴データサービスによって視聴ログを取得することができるという実施形態独自の構成によるものである。

【0056】

また、クライアントは、視聴データサービスによって取得した視聴データによってプロモーション映像や広告映像に関する視聴者の評価レベル（視聴率等）を解析することができる。したがって、クライアントは、ユーザ評価レベルの高いPVadの制作戦略について、視聴データを利用することができる。特に、図11Bに示す広告主用視聴データのように時間帯別アクセス数を取得できるとすると、各クライアントは、より詳細な視聴者の評価レベルを得ることができる。

【0057】

さらに、視聴ログをPVad視聴カウンタDB400に記録する際に、PVadサービスサーバ200のCPU20が、ユーザの性別、年齢、住所、職業等のプロフィールを記録しておくようにすれば、視聴データサービスで提供する視聴データをより詳細に構成することも可能である。具体的には、例えば、広告対象としてPVadに含めた商品の宣伝ターゲット年齢層が絞られている場合に、視聴ログ数からそのターゲット年齢層のみを抽出して解析することで、制作したPVadの評価を精度良く行うことができる。これにより、PVadを利用した効果的なマーケティング活動を行うことができる。なお、ユーザのプロファイルの記録は、ユーザがPVad配信サービスの提供を受ける際に、あらかじめユーザ登録によって上記プロフィールの入力を要求するようにすればよい。

―― 6. 本発明のその他の実施形態 ――

実施形態では、ユーザ端末としてユーザPC100を例示したが、これに限られるものではなく、PDA等のその他の機器を利用してもよい。

【0058】

実施形態では、PVadサービスサーバ200が、視聴ログをPVad視聴カウンタDB400に記録することとしているが（図7ステップS758参照）、

これに限らず、視聴ログを記録するサーバ（特許請求の範囲の「コンテンツ配信履歴記録装置」に対応する）を別に備えるようにしてもよい。この場合、その視聴ログを記録するサーバは、P V a d を配信した情報（P V a d - I D、P V - I D、a d - I D、アクセス日時に関する情報等）をインターネット上で取得できるようにすればよい。

【 0 0 5 9 】

実施形態では、P V a d サービスの運営としてインターネットを利用した例によって説明したが、これに限らず、蓄積型放送、H D 放送、双方向データ放送等を利用してよい。この場合、ユーザによるP V a d の視聴ログは、電話線等を利用して取得するようにすればよい。

【 0 0 6 0 】

実施形態では、ユーザP C 1 0 0 のC P U 1 0、P V a d サービスサーバ2 0 0 のC P U 2 0、広告主P C 6 0 0 のC P U 6 0 の動作のためのプログラムを、それぞれ、ハードディスク1 4、ハードディスク2 4、ハードディスク6 4 に記憶させているが、それらのプログラムは、プログラムが記憶されたC D - R O M から読み出してインストールすればよい。また、C D - R O M 以外に、フレキシブルディスク（F D）、I C カード等の、プログラムをコンピュータ可読の記録媒体からインストールさせるようにしてもよい。さらに、通信回線を用いてプログラムをダウンロードするようにすることもできる。また、C D - R O M からプログラムをインストールすることにより、C D - R O M に記憶させたプログラムを間接的にコンピュータに実行させるのではなく、C D - R O M に記憶させたプログラムを直接的に実行するようにしてもよい。

【 0 0 6 1 】

なお、コンピュータによって、実行可能なプログラムとしては、そのままのインストールするだけで直接実行可能なものはもちろん、一旦他の形態等に変換が必要なもの（例えば、データ圧縮されているものを解凍する等）、さらには、他のモジュール部分と組合して実行可能なものも含む。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

P V a d (プロモーションビデオ・アドバタイズメント) サービスシステムの概略図である。

【図 2】

ユーザ P C のブロック図である。

【図 3】

広告主 P C のブロック図である。

【図 4】

P V a d サービスサーバのブロック図である。

【図 5】

P V a d データベースの構成を示す図である。

【図 6】

P V a d 視聴カウンタデータベースの構成を示す図である。

【図 7】

P V a d 配信サービスのフローチャートである。

【図 8】

図 8 A は、メインメニュー画面例である。

図 8 B は、P V a d 画面例である。

【図 9】

P V a d 視聴データサービスのフローチャートである。

【図 1 0】

図 1 0 A は、I D / パスワード入力画面例である。

図 1 0 B は、I D / パスワード確認画面例である。

【図 1 1】

図 1 1 A、図 1 1 B、図 1 1 C は、広告主用視聴データ画面例である。

【図 1 2】

図 1 2 は、レコード会社用視聴データ画面例である。

【図 1 3】

P V a d サービスシステムのシステム図である。

【符号の説明】

2・・・インターネット

100・・・ユーザPC

200・・・PVadサービスサーバ

300・・・PVadデータベース

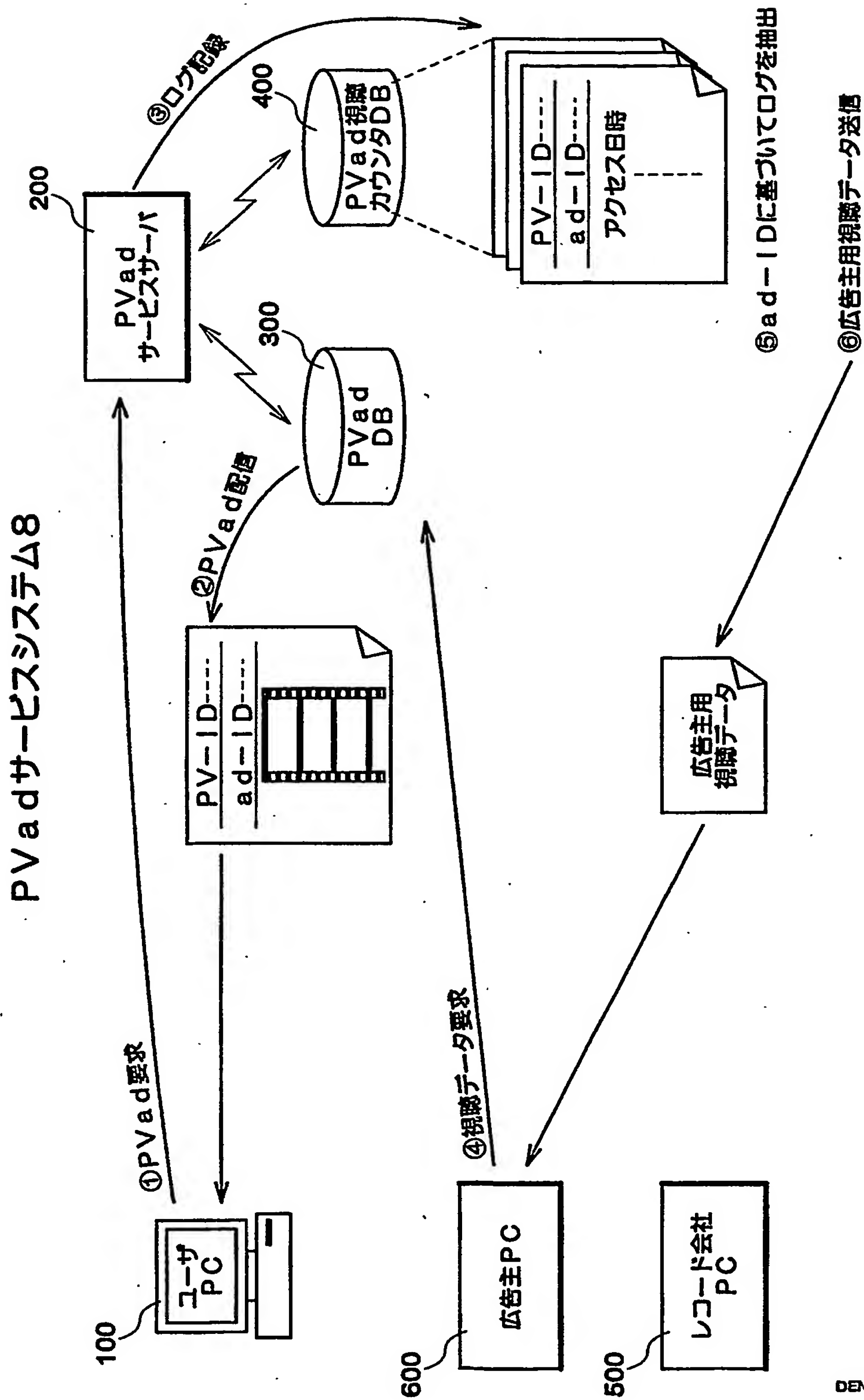
400・・・PVad視聴カウンタデータベース

500・・・レコード会社PC

600・・・広告主PC

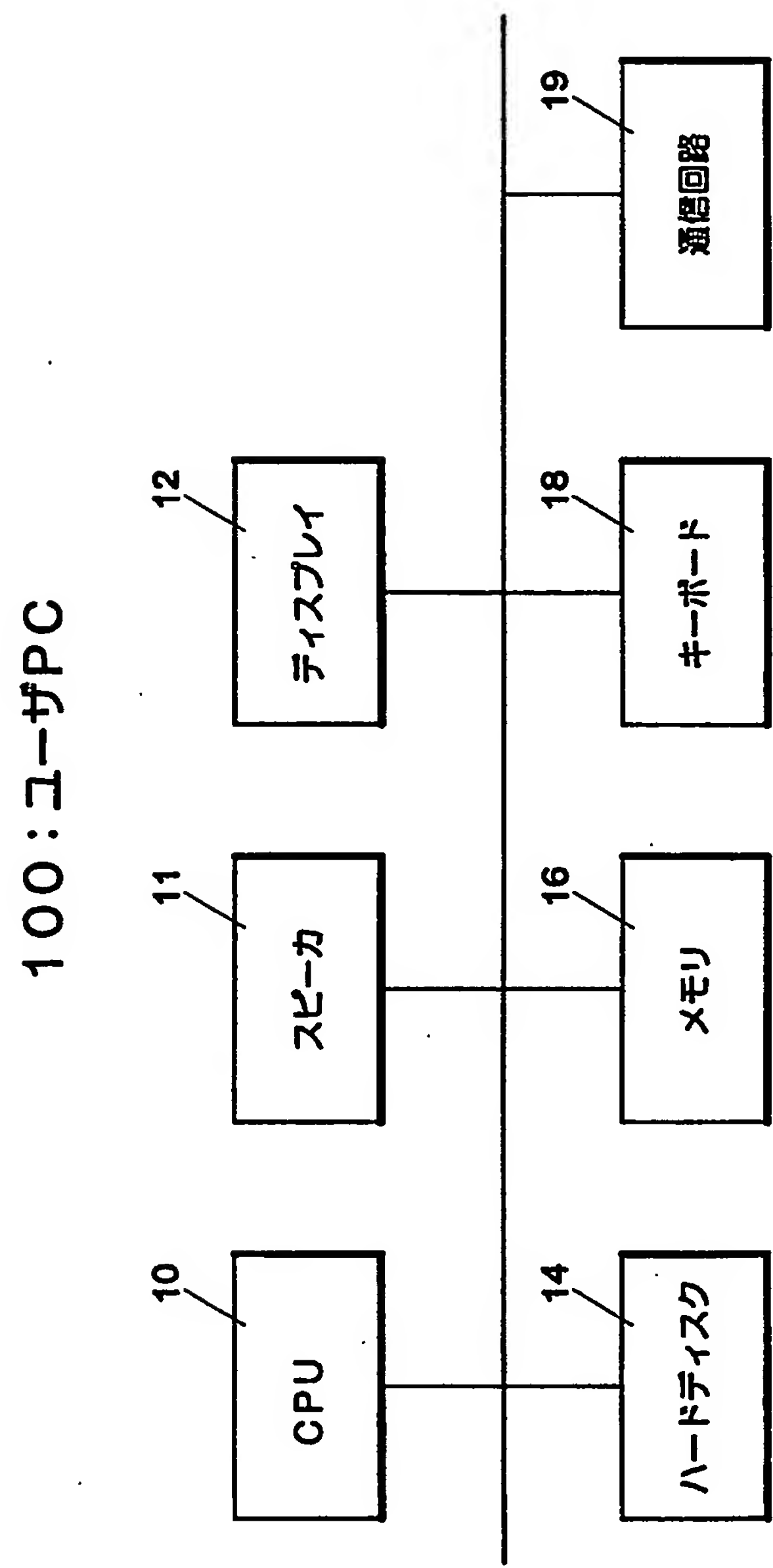
【書類名】 図面

【図 1】



DEK1201

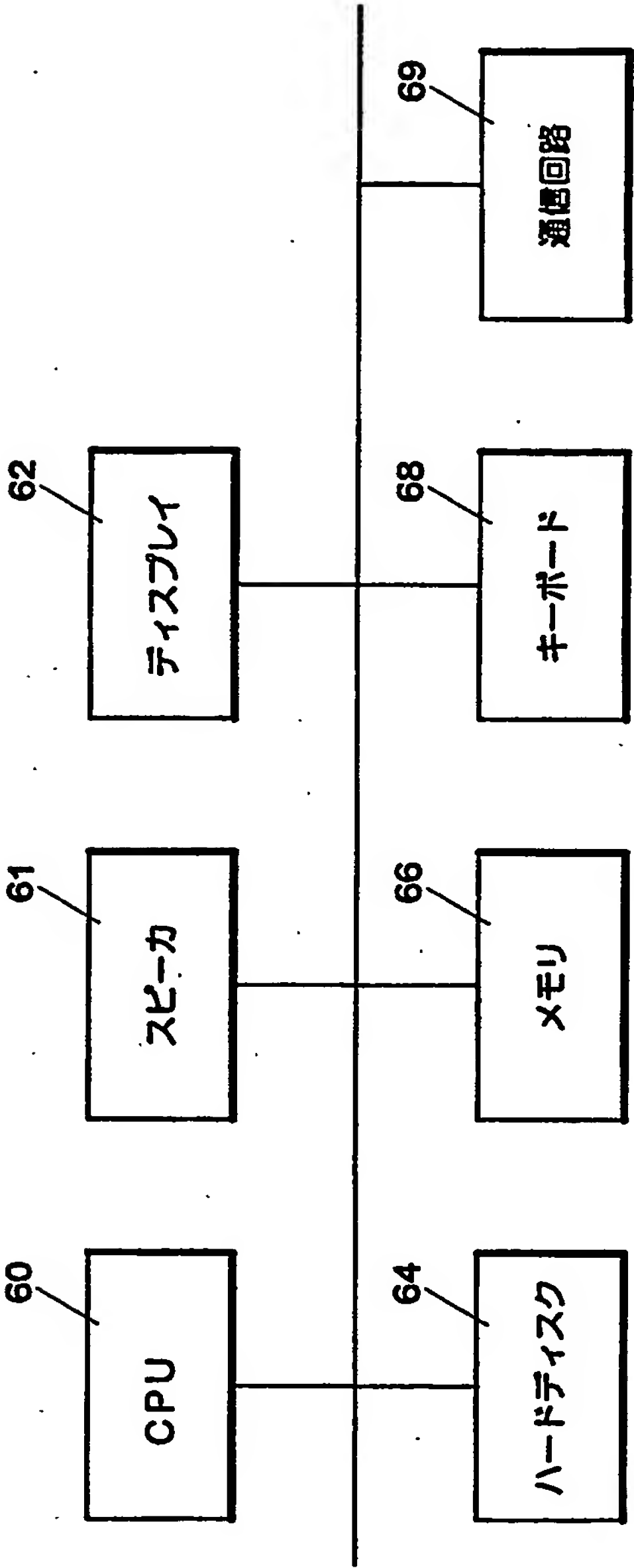
【図 2】



DEN01202

【図 3】

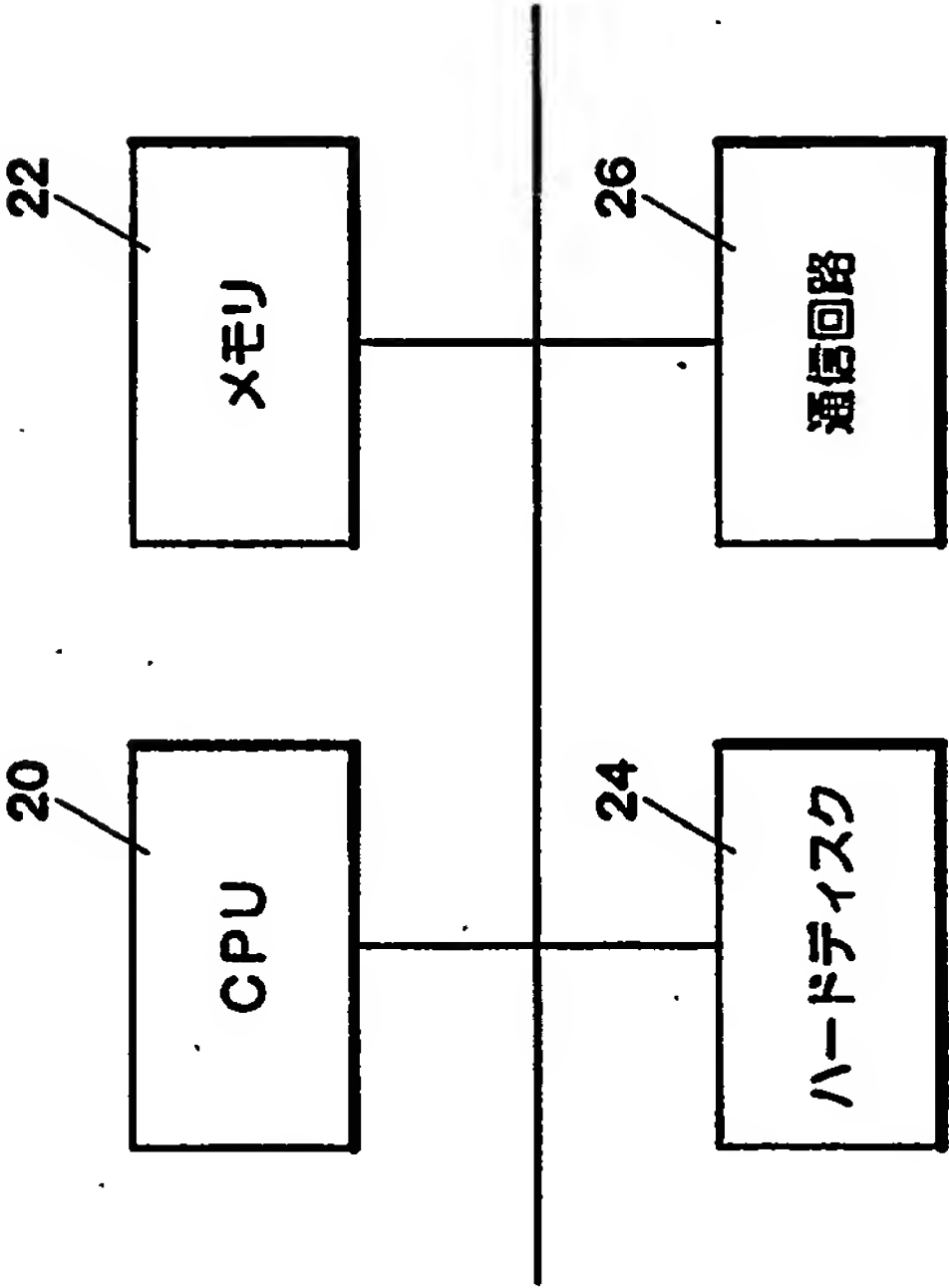
600：広告主PC



DEN01203

【図 4】

200: PVadサービスサーバ



DEN01204

【図 5】

PVadDB300

PVad-ID	K-18
PV-ID	kkw-05
ad-ID	CCJP
アーティスト名: ABCバンド 曲名: LOVE POPS adアイテム名: ドリンクZ (CCカンパニー)	
PVadデータ : :	

DEN01205

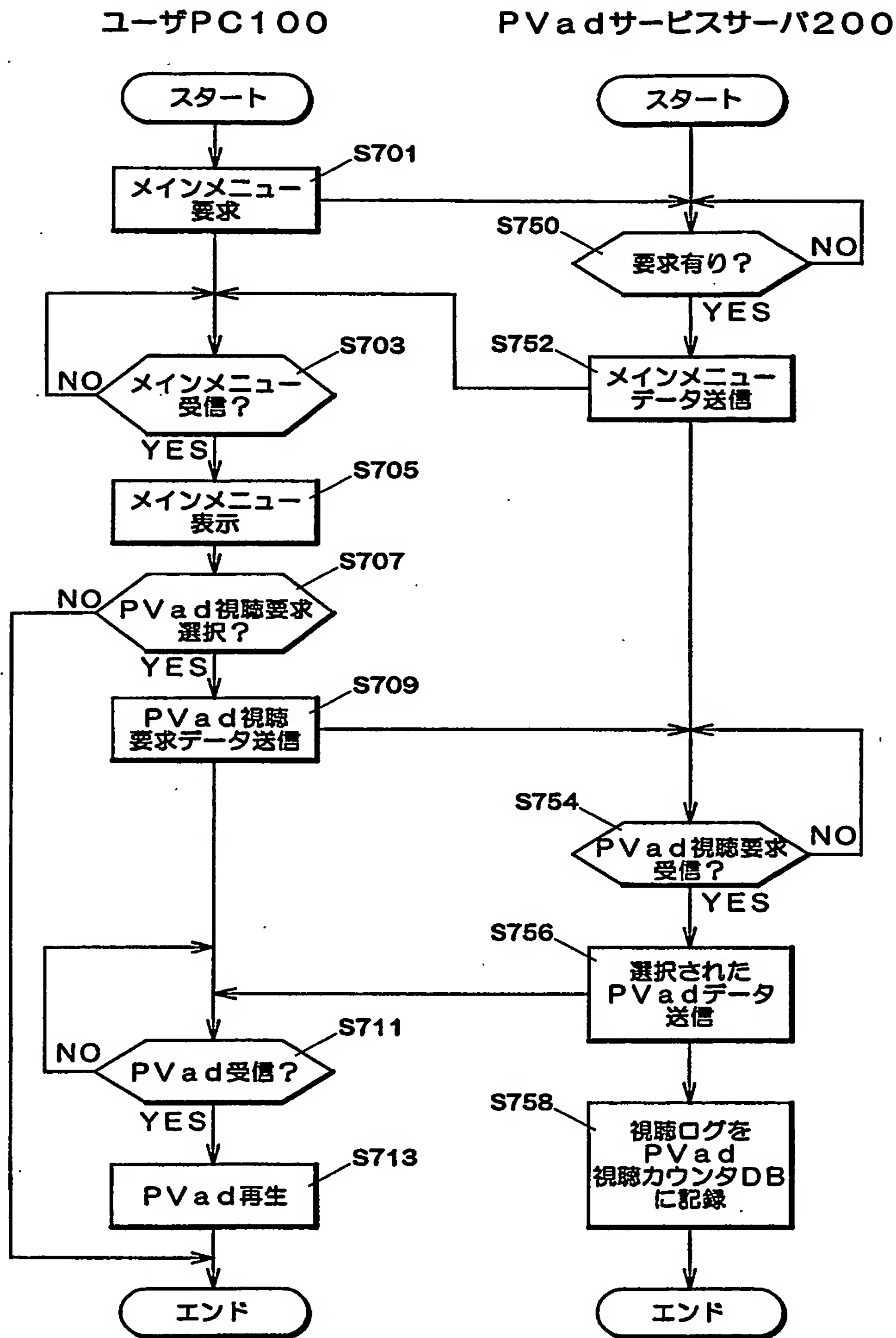
【図 6】

PVad視聴カウンタDB400

PVad-ID	K-18	アクセス日時
PV-ID	kkw-05	
ad-ID	CCJP	
アドレス		
abc@xyz.com	12/25/01 17:15	
yzn@opr.com	12/25/01 17:30	
fhw@mpr.com	12/26/01 06:18	

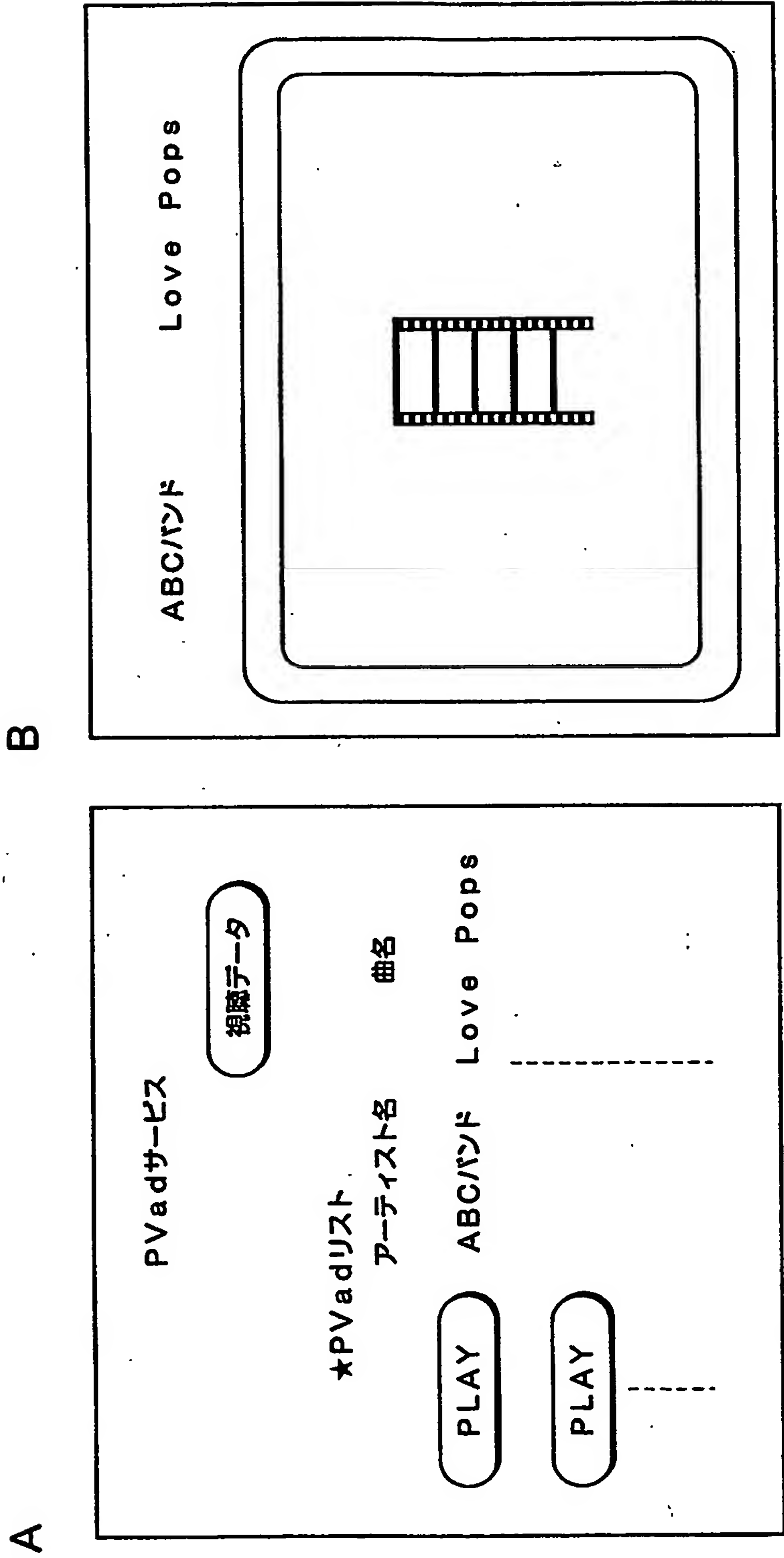
DEN01206

【図7】



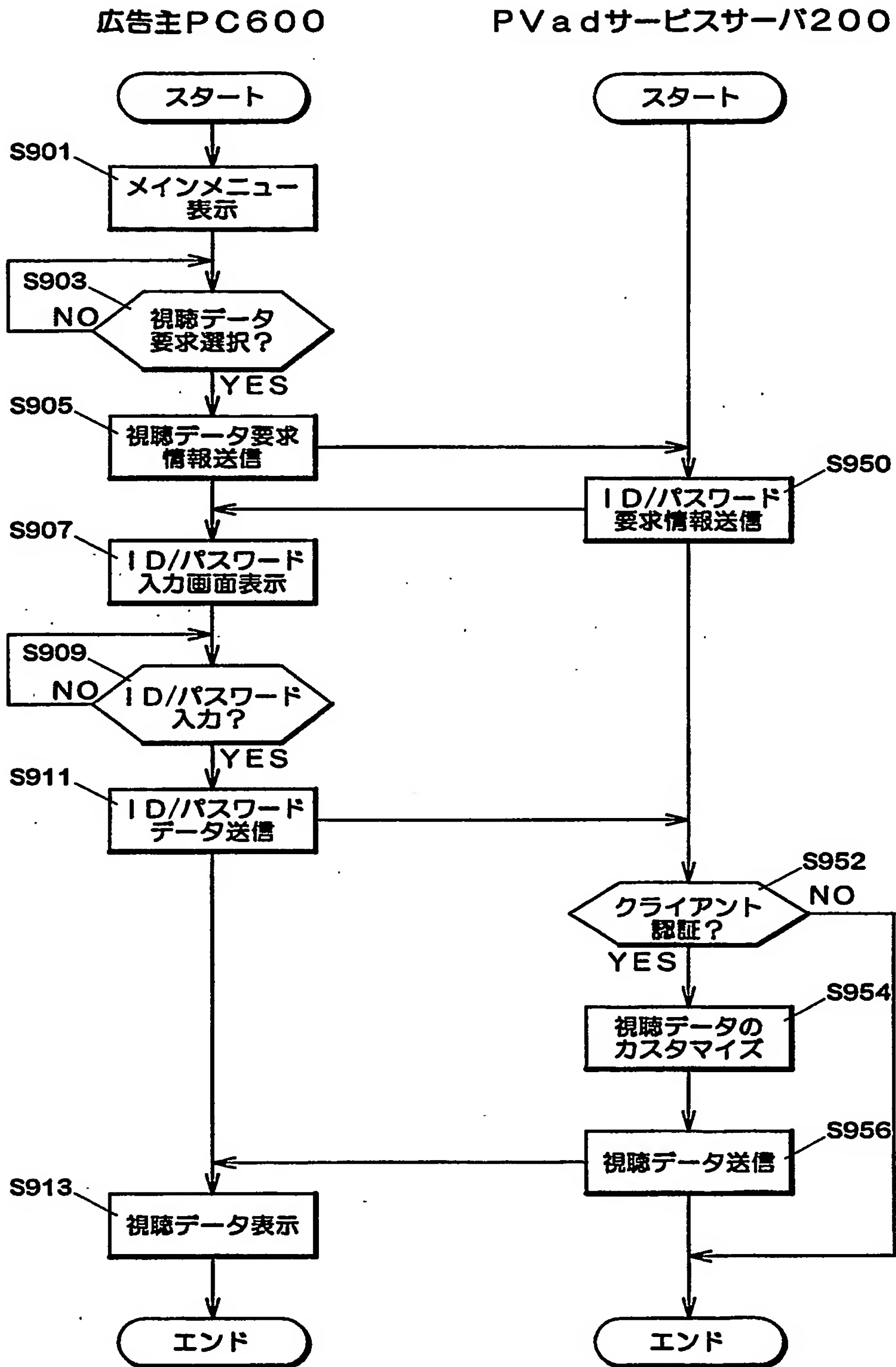
DEN01207

【図 8】



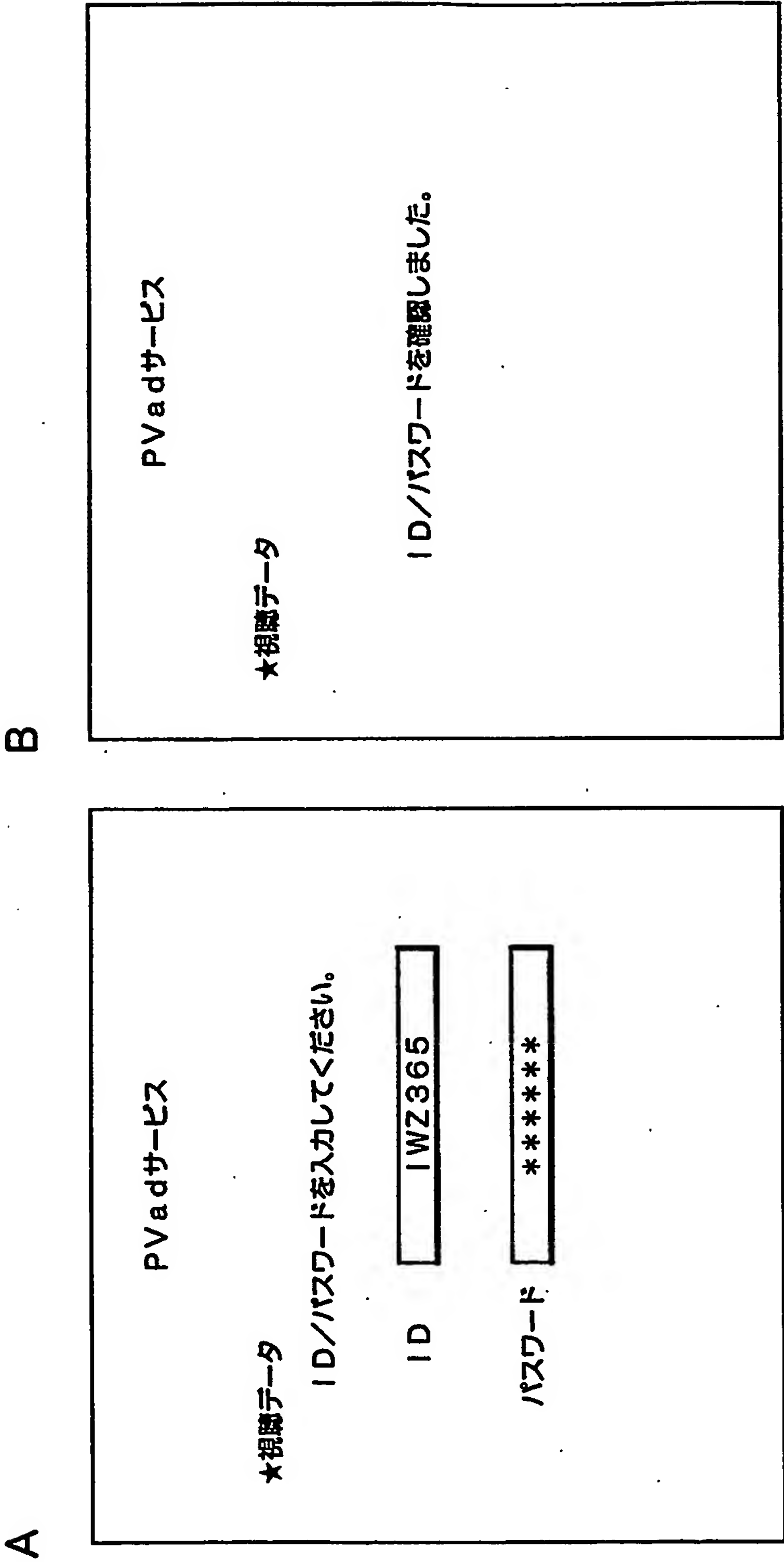
DEN01208

【図9】



DEN01209

【図 1 0】



DEN01210

【図 1 1】

広告主用視聴データ

A

PVadサービス	
★視聴データ	
アーティスト名: ABCバンド	
曲名: Love Pops	
adアイテム名: ドリンクZ	
視聴数	312,150
(時間帯別アクセス)	

B

時間帯別アクセス数	
アーティスト名: ABCバンド	
曲名: Love Pops	
adアイテム名: ドリンクZ	
9:00~12:00	42,300
12:00~15:00	57,740
15:00~18:00	70,258
18:00~21:00	141,852

C

PVadサービス	
★視聴データ	
adアイテム名: ドリンクZ	
①アーティスト名: ABCバンド	
曲名: Love Pops	
視聴数	312,150
②アーティスト名: XYZ	
曲名: Z-Rocks	
視聴数	27,555
(時間帯別アクセス)	

【図 12】

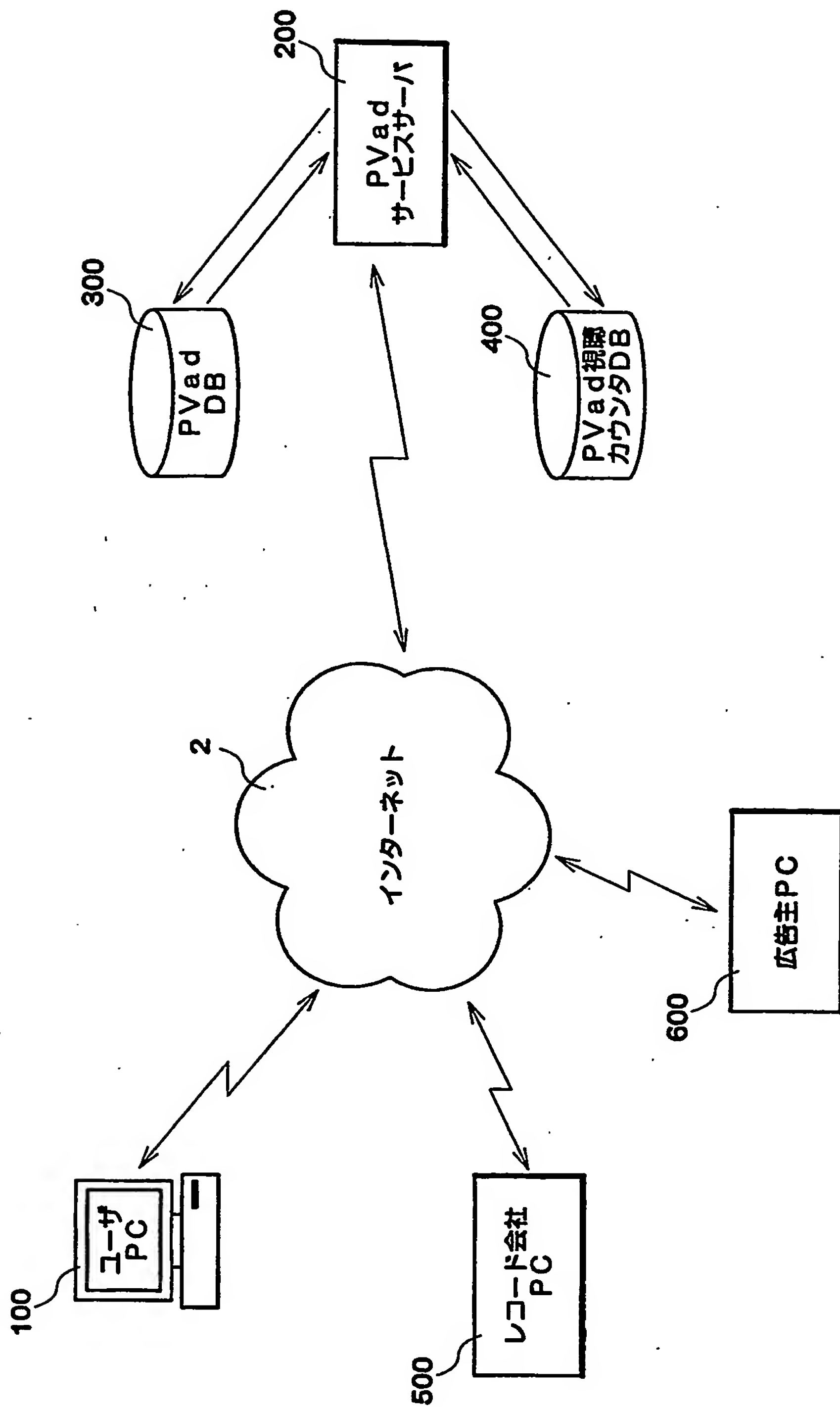
レコード会社用視聴データ

PVadサービス
★視聴データ
アーティスト名: ABC/バンド
曲名: Love Pops
視聴数 <input type="text" value="538,238"/>

DEN01212

【図 13】

PVadサービスシステム8



DEN01213

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 宣伝広告機能の高いコンテンツの作成方法および、そのようなコンテンツの配信に好適なコンテンツ配信装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 ユーザPC100は、PVadサービスサーバ200にアクセスしてPVad（広告要素を含んだプロモーションビデオ映像）の配信を要求し（1）、PVadサービスサーバ200は、PVadを配信する（2）。PVadは、ビデオ映像に含まれるアーティスト等を特定するPV-IDと、広告要素を特定するad-IDとに対応づけて記録されている。PVadサービスサーバ200は、その配信ログをPVad視聴カウンタDB400に記録する（3）。広告主PC600は、視聴データを要求し（4）、PVadサービスサーバ200は、PVad視聴カウンタDB400に記録されたデータから、ad-IDに基づいて視聴ログを抽出し（5）、広告主視聴データとして送信する（6）。

【選択図】 図1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000151092]

1. 変更年月日 1990年 8月14日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都中央区築地1丁目11番10号
氏 名 株式会社電通
2. 変更年月日 2002年11月19日
[変更理由] 住所変更
住 所 東京都港区東新橋1丁目8番1号
氏 名 株式会社電通